

【決算説明会質疑録】平成 26 年 12 月期 期末決算

<日時>2月13日 15:30-17:00

<登壇者>代表取締役社長 上條、取締役経営管理部長 溝上、サッポロビール社長 尾賀

1. 国内酒類事業について

Q. オンリーワンの商品を積み重ねてきて、ビールジャンルの販売数量が好調だが、今年の販売戦略について説明してほしい。

A. (尾賀) 総需要予測では、今年 of ビールジャンルの販売数量は前年を下回ると言われている一方、プレミアムや機能系商品は前年を超えるだろう。伸張する分野でいかに伸ばしていくか、また、縮小する分野ではいかに歯止めをかけるかが大事だと思う。

昨年は基軸のブランドに注力した結果、「エビス」や「麦とホップ」「極 ZERO」がいずれも好調だった。今年もこの姿勢を崩さずにやっていく。

また、3月には機能系商品の分野で新商品を投入し、夏場に向けた新商品の準備もしており、それらを踏まえれば売上数量計画は達成できると考えている。

Q. 酒税改定時の価格設定についての考えを説明してほしい。

A. (尾賀) 酒税改定については時期も内容も未定であるが、基本的には税金の差額分については販売価格にスライドさせるものと考えており、消費者の方々には酒税改定による価格改定である旨をきっちりと説明をする必要があると考えている。

2. サッポログループ経営計画 2015 年-2016 年について

Q. サッポログループ経営計画 2015 年-2016 年について、セグメント別の取組みを教えてください。

A. (上條、溝上) 国内酒類事業では基軸ブランドへの注力、国際事業ではシルバースプリングシトラス社と買収決定したカントリーピュアフーズ社とのシナジーやベトナムの売上伸張、食品・飲料事業ではシンガポールを中心とした海外子会社の堅調な業績と国内でのレモンやスープなど強みを生かすことを最優先に行い増益を目指す。不動産事業では、市況に鑑みながらリーシング交渉を行ったため、収益貢献の時期ずれは生じたものの、大きな問題は発生していない。2016 年には銀座ビルが竣工し、収益貢献する予定である。

Q. サッポログループ経営計画 2015 年-2016 年について、達成にかける意気込みは？

A. (上條) 計画目標については、各セグメントごとの戦略に沿ってしっかりと実行していくことにより十分に達成可能であると考えている。目標達成への強い意欲を持って取り組んでいく。

以上